

乳幼児健康診査事業実践ガイドに 基づく多職種連携で行う保健指導

④ 母子保健活動の中での歯科衛生士の 役割と期待



あいち小児保健医療総合センター
山崎嘉久

achemec@gmail.com

母子保健事業に従事する歯科衛生士さんに望まれる役割

個別対応や事業実施

- ・乳幼児健診事業
- ・相談事業
- ・集団指導や教室・・・など
- ・健診データ等の分析
- ・8020事業・・・など

事業計画

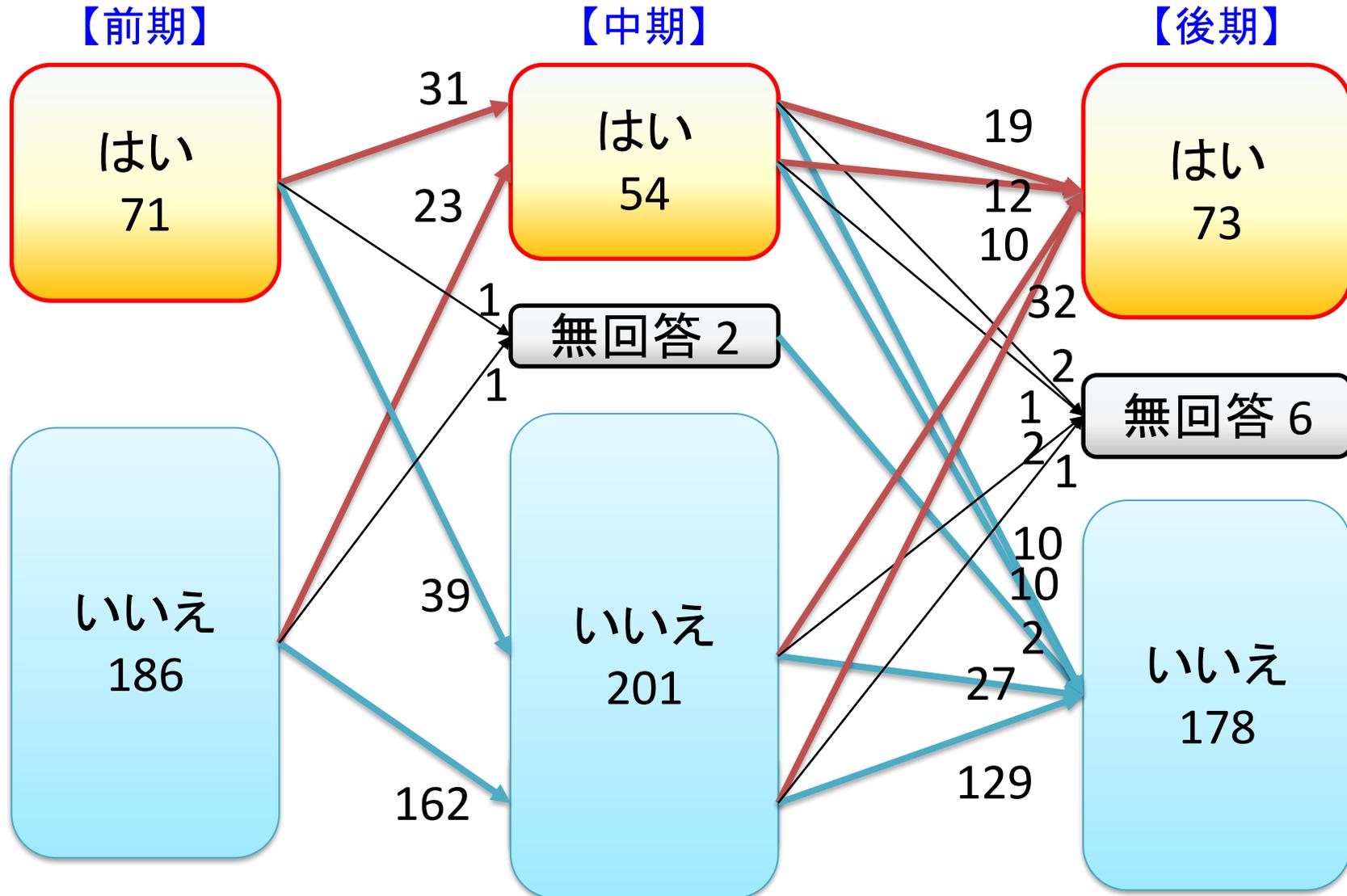
- ・直観とデータに基づいた課題抽出
- ・多職種や地域・関係機関を巻き込んだ事業計画と実施
- ・評価と見直し

関係構築

- ・支援対象者
- ・多職種間(歯科医師・医師や事務職も)

問診に見る妊婦の気持ちの揺らぎ (n=257)

最近、「眠れない」「イライラする」「涙ぐみやすい」「何もやる気がしない」などの症状が続いていますか。



従来の母子保健 → 母子保健を包含した子育て世代包括支援センター



「支援プランについての基本的考え方」

段階的な支援と利用計画（セルフプラン）・支援プランの関係

個別の状況に応じた情報提供

対象者イメージ：報提提供があれば、自身に必要なサービスの選定・利用が可能な段階。自身で各種サービスの「利用計画（セルフプラン）」が立てられる。



支援プランは、関係機関による支援が必要な場合に、個々の妊産婦や保護者等の実情を踏まえ、**利用者の視点**で作成するもの

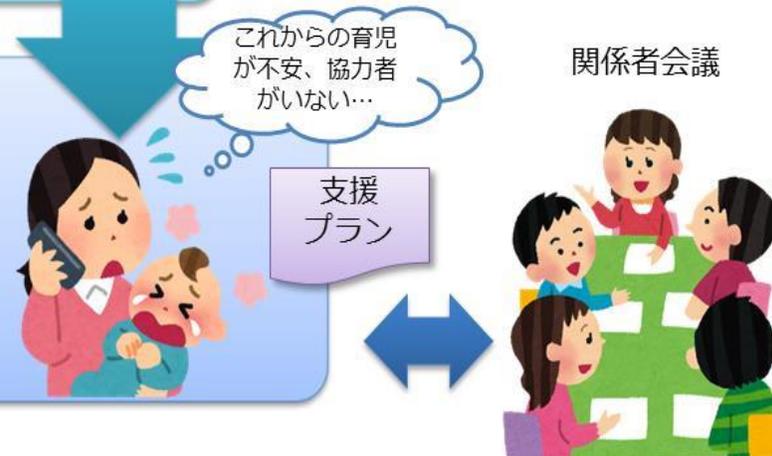
利用計画（セルフプラン）の作成支援

対象者イメージ：情報提供に加えて、専門職等の助言や支援があれば、必要なサービスの選定・利用ができる段階。センターによる助言・支援があれば「利用計画（セルフプラン）」が立てられる。



支援プランの策定

対象者イメージ：センターによるサービスの調整・利用支援や、サービスの提供や関係機関による密なモニタリングが必要な段階。関係機関による支援やモニタリングについても整理した「支援プラン」を策定。



厚生労働省
「子育て世代包括支援センターの業務ガイドライン」より
(一部改変)

対人支援における「早期ダイアログ」 *Early Dialogues*

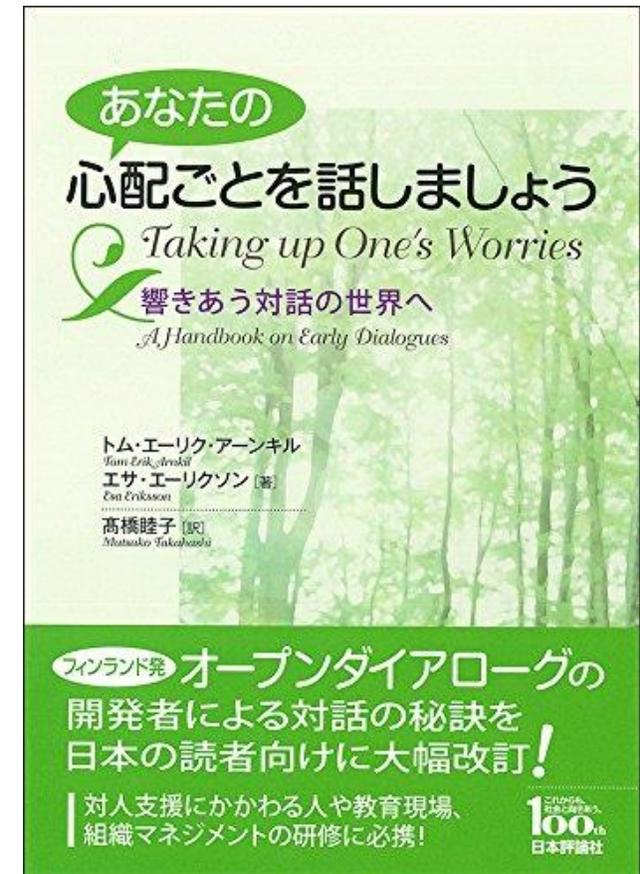
対人支援の現場

支援者からの助言やはたらきかけ(支援)は、必ずしも(支援者の期待通りには)利用者/当事者に届かない。

- 支援が本人には腑に落ちない、
- 本人たちが支援者に対して警戒心を持っている など

あなたの心配ごとを話しましょう
響きあう対話の世界へ

トム・エーリック・アーンキル (著), エサ・エリクソン (著),
高橋睦子 (翻訳)
株式会社日本評論社 2018年7月25日



対人支援における早期ダイアログ

2. 発想の転換

「利用者/対象者の問題」よりも「支援者自身の心配ごと」に関心を向ける。

出発点は、『わたし』=『支援者』の心配ごと・気がかり
(あの”家族・困った人たち”の問題ではない)

専門職が心配する時にはそれだけの理由があり、先送りしないことが大切。
「わたし(支援者)の心配ごと」を相手に伝えたいが、先送りしがち・・・
先送り: これまでの関係を壊したくない? でも、このままでは?
先送りの結果: 心配ごとは解消されず、支援の選択肢は減っている

「自分の心配ごと」を相手に伝えるのは、『(わたしの)心配ごとを減らせるように、(あなたに)手伝ってほしい』という協力の呼びかけ。

対人支援における早期ダイアログ

3. どうすれば、心配ごとを伝えて、相手に「協力」を依頼できるだろうか？

第一段階：心配ごとの程度の把握 - 自分の心配・気がかりはどの程度なのだろうか
(内省)

相手の重症度のみでなく、
自分の心配の程度

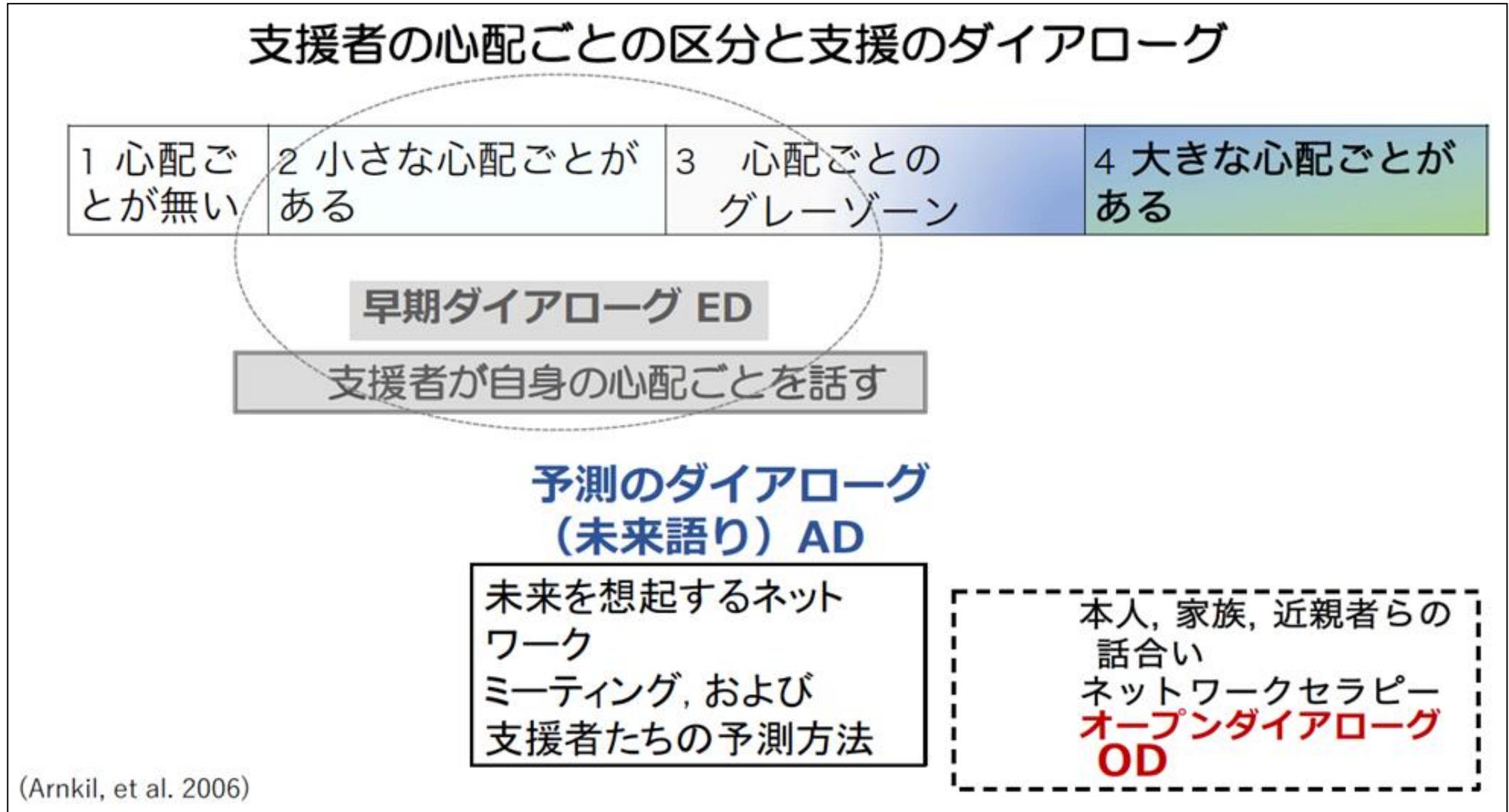
(1)自分の心配ごとをよく考え、どういったところで相手(親・養育者)の協力を必要としているかを把握する。

(2)子ども、親・養育者との関わりで、肯定的に感じられることをリストアップする。

表. 心配ごとの「程度」の区分

1 心配ごとが無い	2 小さな心配ごとがある		3 心配ごとのグレーゾーン		4 大きな心配ごとがある	
<p>(1) 全く心配ごとが無い</p>	<p>(2) 小さな心配ごとや気がかりがある 自分の可能性は強く信頼できる</p>	<p>(3) 心配ごとや気がかりを繰り返し感じる。 自分の可能性は十分信頼できる</p> <p>追加のリソースの必要性も頭の隅をよぎる</p>	<p>(4) 心配ごとが増える。 自分の可能性への信頼が弱まる</p>	<p>(5) 心配ごとが大きくなっている。 自分の支援リソースが限界に近づきつつある。</p> <p>追加のリソースとコントロールの必要性が明らかに感じられる</p>	<p>(6) 多大な心配ごとが継続している。 子どもや若者が危険に晒されている。 自分の支援は底を尽こうとしている。</p> <p>追加のリソースとコントロールが即刻必要</p>	<p>(7) 心配ごとが非常に大きい。 子どもや若者が緊急の危険に晒されている。 自分の支援は万策尽き果てようとしている</p> <p>子どもの状況を即刻変えなければならない</p>

図. 心配ごとの区分と各種の「支援のダイアログ」



対人支援における早期ダイアログ

3. どうすれば、心配ごとを伝えて、相手に「協力」を依頼できるだろうか？

第二段階：相手の反応の予測 - 心配ごとを伝えると、相手はどのように反応するだろうか。

(3) 小言や批判と相手に誤解されずに表現するにはどうすればよいか、よく考える。

(4) 自分が計画したように進めるとどうなるか、相手はどう反応するだろうか、予測する。

(5) 自分が考えた手順と表現方法を、心の中で、あるいは、同僚とシミュレーションする。

対人支援における早期ダイアログ

3. どうすれば、心配ごとを伝えて、相手に「協力」を依頼できるだろうか？

第二段階：相手の反応の予測 - 心配ごとを伝えると、相手はどのように反応するだろうか。

(6) これまでのやり方では話が進まないと予測されるなら、アプローチを見直す。

(7) 相手とのやりとりに良い手応えを感じたら、適切なタイミングと状況で、自分の心配ごとを伝えてみる。

(8) 相手の話をよく聞き、関心を向け、柔軟に対応する、心配ごとを伝えるのは「双方向のプロセス」なので、自分の計画に固執せず、全体の文脈に添ったやりとりが大切。

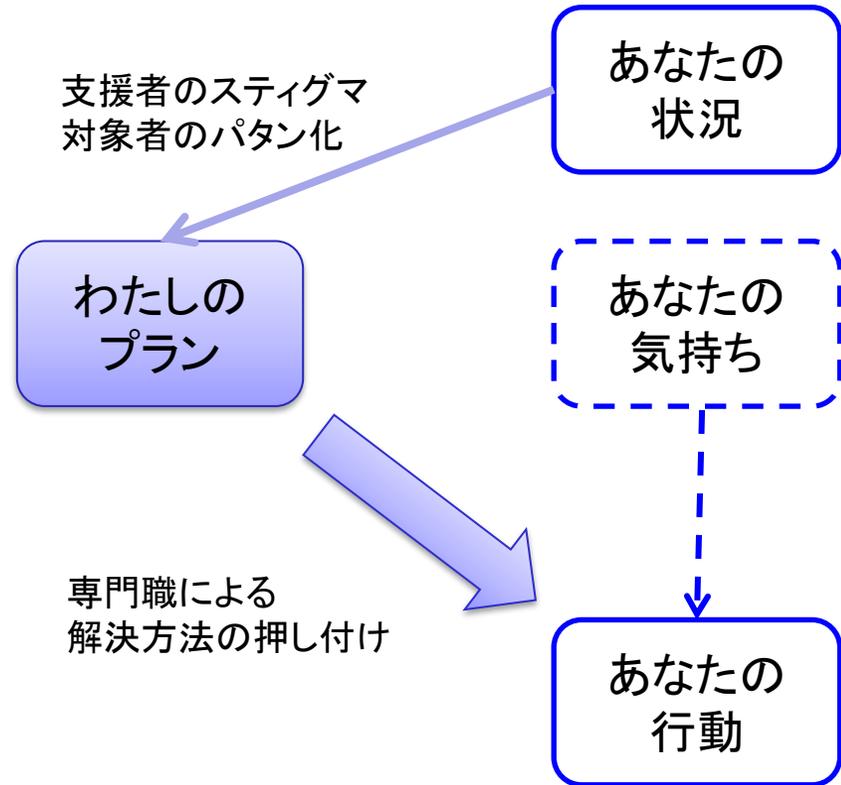
<これまでの考え方>

課題
<ul style="list-style-type: none">・子どもが低体重で医療機関への通院を必要としている。・生活基盤の不安定さ、生活能力の乏しさが見受けられる。・祖父母世代もまだ仕事をしているため、支援も期待できない恐れがある。・母親自身の育児能力が乏しい恐れもある。
支援目標/支援方針
<ul style="list-style-type: none">・医療機関との連携を取りながら、子どもの発育を見守っていく。・経済的問題、生活基盤の安定のために、福祉制度の活用を促していく。・母の育児能力がどの程度ありそうかをアセスメントし、支援方法を検討する。

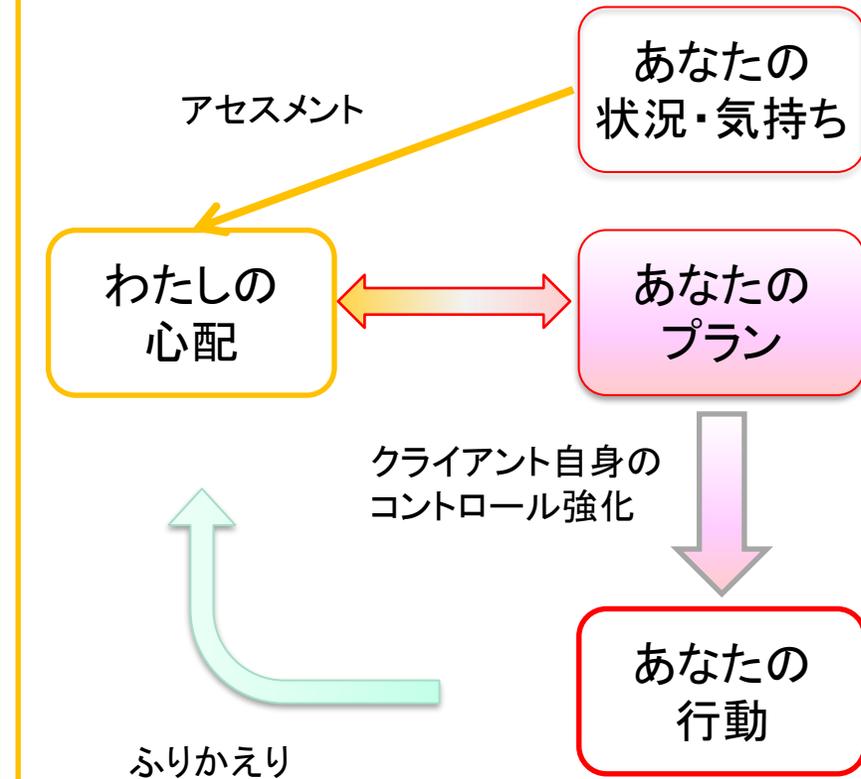
<利用者目線の考え方>

担当者の心配なこと
 <p>どんな言葉が、思い浮かびますか？</p>
母は、どうなりたいのか？ 母は、どんな方法を利用できるか？

同意を得る



話し合う



対人支援における早期ダイアログ

3. どうすれば、心配ごとを伝えて、相手に「協力」を依頼できるだろうか？

第三段階：伝えた後のふりかえり - 伝えてみて、どうだっただろうか。

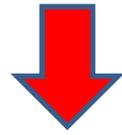
(9) 何が起こったのかをよく振り返る - 予測したとおりだったか、これからどのように続けていくのか。

(10) 相手の状況を改善するには、やりとり/ダイアログを続け、相手に「あなたの協力を求めている」というメッセージを伝え続けることが重要。

※対話への準備：時間と空間の確保（相手を尊重する）

継続的で利用者目線に立った支援モデル

Triage model



介入的支援
親子の生存の保障

ハイリスクアプローチ

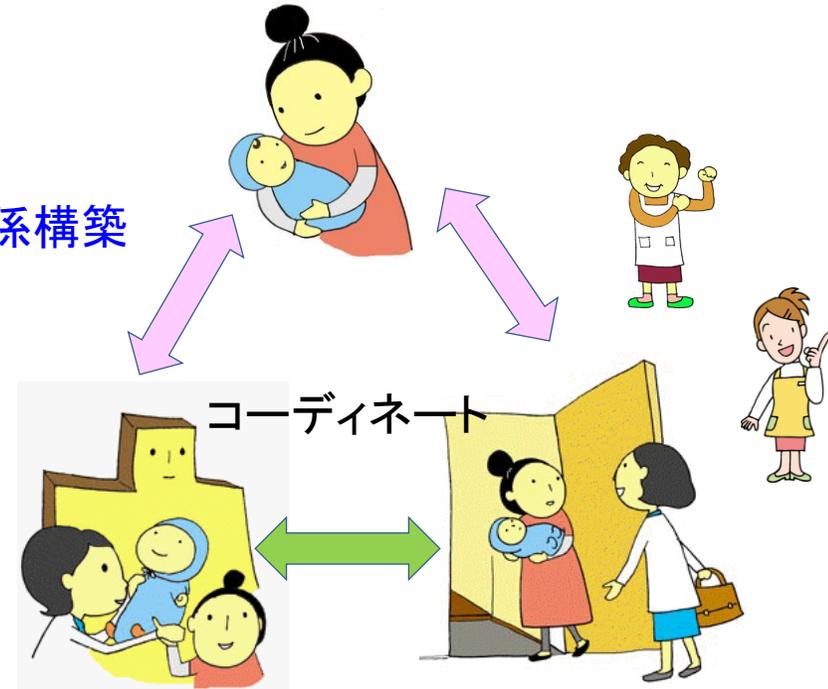
児童相談所・
要保護児童対策地域協議会など

ポピュレーションアプローチ

子育て世代包括支援センター

Empower model

関係構築



医療機関スタッフ

保健機関スタッフ
他機関スタッフ